



「すべての生命が安心して生活できる社会の実現」を目指して

Annual Activity Report 2010

特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス

2010年度 年次報告書

Terra Renaissance Manifesto 2010-2012

～世界を変える3つの提言 30の行動目標～

1. 10,000人の紛争で傷ついた人々を支援します（支援）

- (1) ウガンダ共和国北部で、元子ども兵 160 名の社会復帰を実現します
- (2) ウガンダ共和国北部で、元子ども兵の住む地域の貧しい人々 200 名の収入向上を促進することで、元子ども兵と地域社会との和解を促します
- (3) コンゴ民主共和国で、元子ども兵と紛争の影響を受ける人々 2,000 名の BHN（衣食住など、人間としての基本的なニーズ）を満たし、紛争後に向けての生活を再建します
- (4) カンボジアで、地雷除去支援を行い、1,000 世帯の安全を確保します
- (5) カンボジアで、地雷埋設地域 300 世帯の自立を促進します
- (6) ラオスで、不発弾処理支援を行い、1,000 世帯の安全を確保します
- (7) カンボジア、ラオスで、安全が確保された土地に学校を建設し、1,500 名の子どもたちに教育の機会を提供します
- (8) カンボジア、ラオスで、地雷・不発弾回避教育のための教材を 5,000 部作成・配布します
- (9) 武器貿易条約成立に向け、国内外において積極的な啓発活動を行います
- (10) 活動地域において、不法な小型武器取引の規制を推進する啓発活動を実施します

2. 100,000人の「平和の担い手」を育成します（育成）

- (1) 各種教育機関よりインターンを 200 名受け入れ、平和の担い手を育成します
- (2) スタディツアーを通じて、100 名の平和の担い手を育成します
- (3) 子ども兵、地雷などをテーマにした平和教育プログラムを開発し、各種教育機関に提供します
- (4) 平和教育プログラムを担える教職員を育成するためのセミナーを実施します
- (5) NPO/NGO に関心を持つ学生・若者に対して実践型セミナーを実施します
- (6) 全国各地に 1,000 名のボランティア登録者を募り、テラ・ルネッサンスを応援する地域リーダーを 50 名育成します
- (7) 各種学習会などを通じて、政治家を含めた政策策定者に、小型武器、子ども兵などの課題解決に向けた政策形成を働きかけます
- (8) ひとや地球に優しい企業の在り方を提示し、特に中小企業のCSR推進を応援します
- (9) 活動地域にて、対話による平和構築を目指し、各種セミナー、ワークショップを実施します
- (10) 活動地域事務所にて、スタッフの育成を行い、現地人による主体的な運営を目指します

3. 1,000,000人の平和に関心を持つ人を増やします（啓発）

- (1) 職員、インターン、ボランティアによる講演を、全国各地で 500 回実施し、50,000 人に平和の大切さについて伝えます
- (2) 各種メディアを通して、テラ・ルネッサンスの活動、取り組み課題について積極的に広報します
- (3) 携帯電話サイト、動画サイトを作成し、より「わかりやすい」啓発に努めます
- (4) 支援実績を基に、子ども兵や地雷・クラスター爆弾、小型武器に関する小冊子・DVDなどを作成します
- (5) テラ・ルネッサンスの活動、取り組み課題について伝える写真展を 100 カ所で開催します
- (6) 気軽な国際協力的手段として、使用済みインクカートリッジ、書き損じハガキの回収拠点、募金箱設置個所を 1,000 カ所に増やします
- (7) CSR 調達、ISO26000 の普及にむけ、企業・団体に積極的な働きかけを行います
- (8) 日本国内で不法な小型武器取引規制を求めるキャンペーンを行います
- (9) ウェブサイト上での決済手段を導入し、より寄付のしやすい条件整備を進めます
- (10) 認定 NPO 法人格を取得し、より寄付のしやすい条件整備を進めます



進捗状況

1. 10,000 人の紛争で傷ついた人々を支援します (支援)

カンボジアで小学校の建設・修理を進めたり、ウガンダでは現地職員が主導して事業を運営できるように体制を変更するなど、マニフェスト達成に向けて、大きな進歩が見られました。引き続き、マニフェストに従って、すべての生命が安心して生活できる社会の実現に向けて、力強く支援を続けてまいります。

2. 100,000 人の「平和の担い手」を育成します (育成)

学生の街「京都」という地域性を活かして、さまざまな機関と連携しながら、積極的にインターン・ボランティアを受け入れてきました。ただ、京都以外、または学生以外の層への「平和の担い手」を育成するための事業を開始することができておりません。その点は、2011 年度以降の課題として、引き続き、マニフェスト達成のために、事業の開発・運営に努めてまいります。

3. 1,000,000 人の平和に関心を持つ人を増やします (啓発)

鬼丸昌也以外に講演可能な職員を増やし、より幅広い層への講演活動を展開してきました。また、ウェブサイトを適宜、修正したり、動画専用のウェブページを作成するなど、テラ・ルネッサンスが取り組んでいる課題や、活動をわかりやすく伝えるためのツールを整備し続けています。今後は、より多くの方に、活動への参加を通じて、「平和」に関心を持ってもらえるように、さまざまな参加型プログラムの整備に取り組んでまいります。

ごあいさつ

NPO 法人テラ・ルネッサンスは、2010 年度に理事長交代という大きな節目を迎えました。NPO・NGO のような非営利団体は、特定のリーダーシップに影響されるのではなく、団体の目的や理念・事業に共感する、すべての人々のリーダーシップによって継続されるべきだと、テラ・ルネッサンスを設立した当時から考えていました。ウガンダでの元子ども兵社会復帰支援事業をゼロから立ち上げ、運営してきた小川真吾は、テラ・ルネッサンスの目的・活動理念を十分に理解し、体現している人物です。彼を中心に、設立目的である「すべての生命が安心して生活できる社会の実現」を目指して、さらに力強く活動を継続・発展させていきます。

今後とも、関わるすべての人々の思いを大切に組織運営を図ってまいりますので、ご理解・ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。



テラ・ルネッサンス創設者
鬼丸昌也

目次

●テラ・ルネッサンス マニフェスト……………	P2-3	●平和教育・啓発活動……………	P18-19
●ごあいさつ/目次……………	P3	●メディア掲載……………	P20
●テラ・ルネッサンスの活動理念/活動内容……………	P4-5	●回収事業・募金箱・パネル・スタディツアー……………	P21
2010 年度活動報告		●ご支援紹介……………	P22-23
●ともつな基金……………	P6-7	●会計……………	P24-25
●国際協力事業：アジア……………	P8-12	●物販……………	P26
●国際協力事業：アフリカ……………	P13-17	●役員・体制……………	P27

テラ・ルネッサンスの活動理念

テラ・ルネッサンスのすべての活動は、設立目的（ビジョン）を追求するために行われます。ビジョンを達成するために、責任を持って果たさなければならない任務が使命（ミッション）です。そして、すべての活動の指針となるのが、活動理念です。

目的（ビジョン）

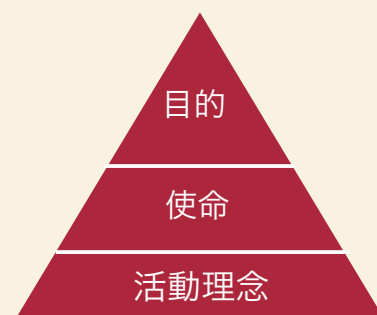
すべての生命が安心して生活できる社会（= 世界平和）の実現

使命（ミッション）

当会の事業を通じ、人々に「次世代に対する責任」を啓発し、それぞれが個人、家庭人、社会人、そして地球市民として、未来の子どもたちの生活をも視野に入れた生活（簡素な生活）を実践することにより、人類共通の理想「世界平和」を実現する。

活動理念

- 1 私たちは、一人ひとりに「未来をつくる力」があると信じ、市民の可能性を追求しています。
- 2 私たちは、内なる変化がすべての変化の始まりであり、変革の主体者は私自身であることを理解しています。そして、他人も変革の主体者であることを理解し、相手を尊敬しています。
- 3 私たちは、あらゆることは常に変化することを理解し、あきらめずに活動し続けています。



団体概要

正式名称	特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス
設立年	2001年（法人格取得2005年）
活動対象国	カンボジア王国、ラオス人民民主共和国、ウガンダ共和国、コンゴ民主共和国、日本
理事長	小川真吾
海外・国内事務所	カンボジア事務所（カンボジア王国バタンバン州） ウガンダ事務所（ウガンダ共和国グル市） 日本事務所（京都市）
海外における主な協力団体	【カンボジア王国】MAG (Mines Advisory Group)、Cambodia Trust 【ラオス人民民主共和国】MAG-Lao 【ウガンダ共和国】GUSCO (Gulu Support the Organization)、Gulu NGO Forum、 Amnesty Commission 【コンゴ民主共和国】GRAM Kivu

活動内容



地雷

- 地雷&不発弾撤去支援プロジェクト（カンボジア）→P10
カンボジアで地雷除去を行う NGO（MAG）に資金を提供。
- 義肢装具士を目指す学生へ奨学金の供与（カンボジア）2009 年終了
NGO（カンボジアトラスト）の義肢装具士養成学校に通う学生に奨学金を供与。
- 地雷埋設地域村落開発プロジェクト（カンボジア）→P8
地雷が撤去された地域で住民参加型の村落開発支援を実施。
- 地雷埋設地域小学校建設プロジェクト（カンボジア）→P12
住民参加型での小学校の修理や建設を実施。
- 不発弾除去への資金提供（ラオス）
ラオスで不発弾除去を行う NGO（MAG-Lao）に資金を提供。
- 不発弾汚染地域での学校建設支援（ラオス）→P12
シエンクアン県で不発弾除去後の土地に中学校を建設。



小型武器

- 除隊兵士家族の生活再建プログラム（カンボジア）2006 年終了（特活）
インターバンドと協働で、自立困難な除隊兵士家族に 6 カ月間、生活再建のための資金を供与。現地スタッフによる生活再建のためのコンサルティングも実施。
- 不法小型武器問題啓発プロジェクト（ウガンダ）→P15
ウガンダ小型武器行動ネットワークと協力して、ウガンダ国内での不法小型武器規制のための市民向けワークショップ、メディアワーク、現地 NGO のネットワーク強化などを実施。



子ども兵

- 元子ども兵社会復帰支援プロジェクト（ウガンダ）→P13
元子ども兵の社会復帰を支援するために、元子ども兵への BHN 支援、職業訓練、基礎教育、心理社会支援、小規模ビジネスの指導、和解促進のためのワークショップなどを実施。
- 元子ども兵及び紛争被害者エンパワーメントプロジェクト（コンゴ民主共和国）→P16
紛争被害者である元子ども兵、性的暴力の被害を受けた女性、社会的弱者への職業訓練などを現地 NGO（GRAM）とパートナー契約を結び実施。



平和教育

- 講演・ワークショップへの講師派遣 →P18
（テーマ：「地雷」、「子ども兵」、「社会起業」など）
自治体、企業、教育機関、市民団体などにスタッフを講師として派遣。
- 元子ども兵と日本の子どもたちの交流による国際理解教育
- 企業、団体への社会貢献事業の提案・協力
- 地雷、小型武器、子ども兵問題解決のためのキャンペーンを他団体と協力して展開
（コントロールアームズ（武器規制）キャンペーンなど）

国内事業：ともつな基金 linking together

設立経緯

「これまで日本の人からの支援を受けて、命を助けられ、自立してきた。今回は私たちが日本の人を助けたい！」。アフリカの元子ども兵、カンボジアの地雷被害者など、これまで私たちが関わってきた多くの人々から寄せられた、日本を支援したいとの声。今回の未曾有の災害に対して、海外での援助活動を行ってきた団体として、私たちだからこそできることがあると考え、さらに海外から寄せられた声にも後押しされ、私たちは人間として行動を起こすことを決意しました。そして、この活動を、「被災者と『とも』に。みんなと『とも』に。ともにつながり合って、この難局から立ち上がるために、「ともにつながろう（ともつな）」基金と名付け、国際協力 NGO としての経験を活かして、被災者の方々が少しでも早く生活を再建できるために、息の長い支援を続けていきます。

活動概要

(1) 緊急人道支援

被災地入りしている NPO や市民団体と連携し、現場のニーズに応じた、被災者への物資提供を行いました。

・茨城県北茨城市への救援物資配布

(協力：がんばろう茨城！学生ボランティアチーム)

生理用品や、おむつなどの生活用品、野菜ジュースやレトルトご飯などの食品、及び、作業時に必要な備品として、ポリバケツや、土のう袋を提供しました。

・宮城県石巻市への救援物資配布

(協力：石巻支援 NPO 連絡会)

携帯ラジオ・ペンライト・電池の 3 点セット (105 組) などを提供しました。

(2) 調整機関の能力強化支援

被災地での物資やボランティアのニーズ調査、調整を行っている機関の能力強化のためのサポートを行っています。

(3) 中長期的な生活再建支援（自立支援）

被災地、もしくはその周辺に拠点を置いて、職員を雇用し、長期的な視野で、被災地の生活再建をサポートしていきます。

2010 年度の活動詳細

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災を受けて、3 月 12 日にテラ・ルネッサンスとして復興支援活動を行うことを発表しました。3 月 14 日に、ウェブサイト上で「ともつな基金」を立ち上げ、3 月 30 日に、専用の口座を開設しました。集まった資金をもとに、京都にて物資を買い付け、3 月 23 日～3 月 26 日まで、茨城県北茨城市の被災者へ緊急支援物資の提供を行い、3 月 27 日には宮城県石巻市へ緊急支援物資を載せた車が発しました。また、岩手県陸前高田市から要請を受け、コピー機や電動アシスト自転車の買い付けを 3 月 30 日より開始しました。(2011 年 4 月に供与済み)

詳しい活動内容については、ともつな基金ウェブサイトをご覧ください。最新の活動報告を掲載しています。

<http://www.terra-r.jp/site/tomotsuna/>



買い付けた物資



物資運搬の様子



被災者の元へ

ウガンダからのメッセージ

日本の被災者（友人）の皆様へ

日本の状況をニュースで見ました。
とても信じられない光景の前に、私は呆然としながらも、
この惨事に自分が何をできるかを、何をすべきかを考え続けました。

何と言えいいのかさえわかりません。
ただ、今、この惨事の中で生き延びることができた方々に
伝えられる唯一の言葉は、

「希望を失わないで下さい」

ということです。

そして、皆さんが「生きている」ことには、
必ず大きな意味があるはずです。

どうぞ、あきらめないでください。
私たちは互いに支えあい、お互いを必要としています。

今まで、日本の方々は私たち、アフリカに多大な支援をしてくださいました。
私たちはそのことに心から感謝しています。

今、私たちは、遠く離れたアフリカにいますが、
「心」は日本で被災した皆様とともにあります。

アフリカの紛争に巻き込まれた私たちは、今日が最悪の日であっても、
明日はよりよい日になると希望を持って生きてきました。

絶望の中によいとも、必ず、世界は私たちを見てくれる。
そう信じて生きてきました。

どうか、皆さんも、心に絶望を感じても、
必ず明日は変わるということに希望を持って生きていってほしいと思います。

私たちも、今日よりもより良い明日が、日本の皆様に訪れることを
心より願い、祈り続けています。

私たちは、皆様とともにいます。

テラ・ルネッサンス ウガンダ事務所
現地職員代表
トシャ・マギー



国際協力事業：アジア（カンボジア王国・ラオス人民民主共和国）

●カンボジア地雷埋設地域村落開発プロジェクト概要

目的	地雷埋設地域の貧困を削減し、地雷被害者や、元子ども兵、小型武器の被害者を含む戦争被害者が自立して生活できるようにサポートをするとともに、新たな地雷&不発弾事故を防止する。
対象地域	カンボジア王国バタンバン州地雷埋設地域
対象者 / 受益者数	カムリエン郡トラン区オッチョンボック村貧困層 100 家族 カムリエン郡バン・ルン区プレア・プット村貧困層 80 家族 カムリエン郡カムリエン区ロカブス村貧困層 100 家族
実施期間	2006 年～継続中

地雷埋設地域村落開発プロジェクト ～村人の自治による村の発展～

バタンバン州カムリエン郡の3村で、村落開発支援を実施しています。3村は、いずれも提携する地雷撤去団体 MAG (Mines Advisory Group) によって地雷撤去が実施され、村人の生活圏内の地雷は撤去されましたが、まだ村の中には地雷原が残っている場所があります。このプロジェクトは、村人たちの自治によって村を発展させ、最貧困層、特に厳しい生活環境におかれている地雷被害者やその家族の生活をサポートしていくものです。



絵本を読むオッチョンボック村の子どもたち（絵本提供：ナガサキピースミュージアム様）

【オッチョンボック村】

支援を始めた 2008 年以來、小規模融資や健康保険の制度を村人たちが運営してきました。この融資によって、73%の家族が収入を向上させています。

2010 年より女性地雷生存者でもある裁縫技術トレーナーを村へ派遣し、村の女性 4 名に実施してきた裁縫技術訓練は、10 月に無事修了し、それぞれ村でお店を開くことができました。

また、NPO ナガサキピーススフィア員の火運動・ナガサキピースミュージアム様からいただいた絵本を、村の小学校へ寄贈し、図書コーナーを設置しました。

2010 年度は 6 名の村人が保険を申請し、健康保険の適用を受けています。また、健康保険の資金は、2 年で 1,400,000 リエル（約 30,000 円）が村の住民組織に貯蓄されています。

家にお金がない時期の保険は、とても助かります。 イェム・ヴァンさん（42 歳）の事例

HIV に感染したイェム・ヴァンさん（42 歳）は、病院へ検査に行くための交通費を保険によってカバーできたことで、感染がわかり、現在は、政府からの無料で提供される薬によって健康状態は改善されています。遠隔地に住む貧困層の村人にとって、病院までの交通費も馬鹿になりません。「家にお金がない時期に、保険として融資を受けるのは、とても助かります」と話すヴァンさん。農民の場合、収入が入るのは農作物の収穫が終わった後。農作物の栽培のために借金までしている貧困層は、栽培期間中はあまり家にお金がないのです。そのため、日雇い労働者として、地主の土地で働きます。それができなくなると、日々の食費さえも困難な状況になります。ヴァンさんは、「病状の安定している現在は、以前のように心配ばかりすることがなくなった」と言います。



修了証書を受け取ったラッタナーさん



寄贈された絵本を読む子どもたち



HIV 感染者ヴァンさん

【プレア・プット村】

プレア・プット村の住民組織では、2009 年から、村長を中心に小規模融資や健康保険制度の運営を始め、2010 年度は、村で亡くなった人の家族へ保険が適用されました。

また、プレア・プット小学校では、2010 年 6 月に開催された『第 4 回「頑張らない」チャリティバドミントン大会』での収益からご寄付いただき、学習机と椅子のセットを 126 個購入しました。

同小学校では、10 月に長崎の NPO 法人コミュニティ時津の 5 名の皆様に来ていただき、井戸の建設と、バレーボールやサッカーボール、絵本を寄贈いただくとともに、小学校の壁のペンキ塗りを、先生や子どもたちと一緒に実施しました。

また、同じく NPO 法人コミュニティ時津の皆様からいただいた資金で、最貧困層の地雷被害家族支援のために、子豚と鶏などを購入するとともに、テラ・ルネッサンスからは、豚舎建設や自然養豚方法を用いた豚飼育の技術指導を行い、試験的に豚飼育支援を実施しました。この試験的な豚飼育支援が上手くいっていることから、2011 年 3 月より村の他の地雷被害者 3 名の家族へも同様の豚飼育支援を開始しています。



寄付で新しく購入した小学校の机と椅子



飼育している子豚と遊ぶ子ども

【プレア・プット村】

同村では、竹製の地雷うちわの製作方法を貧困層の村人たちに訓練し、彼らの収入向上に役立てています。テラ・ルネッサンスが提携する地雷撤去団体 MAG が地雷撤去をしたあとの土地に住むタ・シッスさんの家族は、うちわ製作の収入によって、家を新築することができました。この村では多くの竹が自生しています。この竹を利用してうちわを製作し、地雷や不発弾が危険であることを知らせる地雷回避教育用のポスターをうちわに張ってもらいました。



地雷うちわの製作

【ロカブッス村】

2011年1月より新たに支援を開始し、村人たちと住民組織を設立し、小規模融資や健康保険の仕組みづくりを始めました。今後、地雷被害者家族や最貧困層家族の職業訓練などによって、生活再建支援を実施していく予定です。

●カンボジア地雷回避教育プロジェクト概要

目的	地雷回避教育用グッズの製作・配布により、地雷汚染地域の住民に地雷の危険性を知らせ、地雷・不発弾事故を減らす。
対象地域	カンボジア王国北西部地雷汚染地域
対象者 / 受益者数	カンボジア王国北西部地雷汚染地域の住民
実施期間	2010年～継続中

地雷うちわでクールに啓発！

地雷の危険性を知らせる地雷回避教育用グッズとして地雷うちわを製作し、提携する地雷撤去団体 MAG のコミュニティ・リエゾン・チーム (Community Liaison Team) が実施する地雷回避教育のワークショップで、地雷埋設地域に住む人たちに配布しています。

2010年度は、4,500枚の地雷うちわを製作し、29回のワークショップにおいて、合計3,490枚の地雷うちわを配布し、残りのうちわは地雷問題の啓発用としてバットアンバン市内や、日本で販売、配布しました。



地雷うちわ

●カンボジア地雷 & 不発弾撤去支援プロジェクト概要

目的	2012年までに「犠牲者ゼロ (Zero Victim)」、2015年までに「汚染影響ゼロ (Impact Free)」を目指し、貧困地域の開発支援へとつなげる。
対象地域	カンボジア王国北西部地域 (バットアンバン州、ブルサット州、バンテアイミエンチャイ州、パイリン特別市)
対象者 / 受益者数	地雷撤去団体 MAG カンボジア王国北西部地域の住民
実施期間	2001年～継続中

村人たちの安全を取り戻すために

2011年3月に行ったスタディツアーの際に、提携する地雷撤去団体 MAG へ、地雷撤去活動費として約330,000円を提供しました。

●カンボジア地雷埋設地域伝統音楽復興&継承プロジェクト概要

目的	1. 地雷被害者を含む演奏技術を持つ貧困層による楽団を結成することで、伝統音楽活動を通じた収入向上活動、貧困削減を達成する。 2. 楽団の結成による伝統音楽の再興と、結成した楽団メンバーが、地域の子どもたちに伝統楽器の演奏技術を教えることによって、次世代の演奏家を育成し、伝統音楽が次世代に継承されていくことを目指す。
対象地域	カンボジア王国バタンバン州カムリエン郡トラン区オッチョンボック村
対象者 / 受益者数	オッチョンボック村住民組織 約 100 家族 特に地雷被害者などを含む貧困層住民 10 名、オッチョンボック村の小中学生
実施期間	2010 年 11 月～継続中

長い内戦中は楽しめなかった伝統音楽を地雷埋設地域の村で復活

2010年11月より、バタンバン州カムリエン郡のオッチョンボック村にて、トヨタ財団「アジア隣人プログラム」助成金によるプロジェクトを開始しました。このプロジェクトでは、村の地雷被害者を含めた貧困層の村人たちが、カンボジアの結婚式で演奏されてきた伝統音楽を楽団として演奏することで、ポル・ポト時代に破壊され、長い内戦によって村人たちが楽しめなかったクメール伝統音楽を復興し、そして若い世代にもその演奏と音楽を継承していくことを目指します。12月からオッチョンボック村では、村人たちが夜、集まって伝統楽器の練習をしています。

伝統音楽の復興と継承という目的の他に、このプロジェクトでは、地雷被害者を含む貧困層が、収入の少ない乾季に結婚式などの村の行事で演奏をし、収入を得ることで、貧困層の貧困削減も目指しています。3月には、村の結婚式で初めてこの伝統楽団が演奏し、1人10ドルの謝礼を受け取りました。



カンボジア伝統音楽／結婚式での演奏

●カンボジア地雷埋設地域小学校建設プロジェクト概要

目的	地雷埋設地域の教育環境を整備し、遠隔地の子どもたちに教育の機会を提供し、コミュニティの将来を担う人材を育成する。
対象地域	カンボジア王国バタンバン州バヴェル郡ブオ・ソクリアチ村
対象者 / 受益者数	ブオ・ソクリアチ村とその周辺村の就学適齢児 約 300 名及び教員 6 名
実施期間	2011 年 3 月～継続中

地雷埋設地域の掘立小屋から希望の小学校へ

2011 年 3 月より、バタンバン州バヴェル郡のブオ・ソクリアチ村にて、外務省日本 NGO 連携無償資金協力による小学校建設に着手しました。このプロジェクトでは、6 教室の小学校校舎だけでなく、トイレ、雨水を貯める貯水タンク、教員用宿舎も同時に建設し、教員、生徒用机椅子、黒板を提供することで、地雷に汚染されているために開発の遅れた遠隔地の初等教育環境を整備します。小学校の完成は 2011 年夏を予定しています。



ブオ・ソクリアチ村小学校建設

●ラオス人民民主共和国での活動

理想から行動へ ～クラスター爆弾禁止条約第 1 回締約国会議に参加

2010 年 11 月、ラオスの首都ビエンチャンで開催されたクラスター爆弾禁止条約の第 1 回締約国会議に参加しました。条約は、クラスター爆弾の使用、製造、保有を禁じ、8 年以内の廃棄と 10 年以内の不発弾除去を定めています。会議では、早期の廃棄・除去開始を明記した「ビエンチャン宣言」や、今後の活動を導く明確な行程表のある「ビエンチャン行動計画」を採択しました。

ラオスでは、わずか 0.4%しか撤去できていないといわれる不発弾撤去とともに、被害者の支援が明らかに不十分な状態にあることから、テラ・ルネッサンスでは、今回採択された行動計画をもとに、シエンクアン県での除去支援を継続し、犠牲者支援を開始する準備をしています。



第 1 回クラスター爆弾禁止条約締約国会議

濃霧の中の学校で勉強する子どもたち…プレマ・シャンティ中学校

2009 年にプレマ株式会社様のご寄付で、不発弾撤去を実施したあとの土地に中学校を建設したシエンクアン県カンパニオン村へ、2011 年 2 月 14 日に 1 年ぶりに行ってきました。この日は、濃霧が覆っており、暖房のない教室で、子どもたちは厚手の服やオーバーに身を包み、必死に授業を受けていました。本当にシャイな子どもたちですが、皆とても丁寧にあいさつをしてくれます。

12 名の先生たちによって、5 教室で授業が実施され、1 教室は職員室として利用されています。生徒数の増加率は 58%にもなります。また、それまで小学校を卒業した子どもたちが教育を受ける環境はありませんでしたが、中学校へ進学し、さらに高等教育を受ける機会を多くの子どもたちが享受しています。



プレマ・シャンティ中学校

国際協力事業：アフリカ（ウガンダ共和国・コンゴ民主共和国）

●ウガンダ北部における元子ども兵社会復帰支援プロジェクト概要

目的	元子ども兵が社会復帰するために必要な能力を身につけ、経済的に自立するとともに、地域住民との関係を改善しながらコミュニティーで安心して暮らせるようになる。
対象地域	ウガンダ共和国（グル県、アムル県、バデー県、キットグム県）
対象者 / 受益者数	元子ども兵 128 名 / 貧困層住民 89 名
実施期間	2005 年 5 月～継続中

3 期生の元子ども兵が自立しました！

2010 年 6 月、これまで支援をしてきた元子ども兵たち 38 名（第 3 期生）が無事、卒業しました。多くは子ども時代に誘拐された元少女兵で、非常に長期にわたり反政府軍に捕らえられていました。平均すると誘拐された年齢は 11.1 歳で、9.4 年間も反政府軍に拘束されていました。こうした状況の中、受け入れた当時は、過去の経験を思い出すこともしばしばあり、授業にも集中できず、教室を飛び出してしまう生徒もいました。また、一般社会で生きる知識や技術もなく、ほとんどの生徒は収入がゼロでした。

しかし、当センターでの職業訓練や基礎教育などを経て、今では平均すると約 8,000 円の月収を得ることができるようになっています。この額は、現地の小中学校の教員や警察官の初任給などとほぼ同じ水準です。そして、この収入は半年以上安定しており、中には、自分や家族の衣食住だけでなく、親戚の生活を支えたり、近隣の貧しい住民が困っている時に助けてあげている生徒もいます。

また、受け入れ当時、近隣住民から元少女兵だという理由で、差別や偏見を受けて周囲との関係をうまく築けない生徒もいましたが、今では全員が家族以外に相談できる友人がコミュニティーの中にでき、村社会での相互扶助（助け合い）活動にも参加しています。



修了証書を受け取った 3 期生の元子ども兵たち

5期生が自立に向けての訓練完了



職業訓練に励む元子ども兵と元国内避難民



1年半の訓練を終えて、ミシン等の自立のための道具を受け取る元少女兵（3期生）



村に戻り洋裁技術で生活再建を果たした元少女兵（3期生）

2009年に受け入れた第5期生の元子ども兵38名への1年半のフルタイムの訓練が完了しました。受け入れた当時は、手に職もなく、収入を得ることができなかった元子ども兵が、洋裁、服飾デザイン、手工芸、木工大工の職業技術を身につけることができました。他にも、基礎教育や平和教育を通して、自立していくための準備も整いました。これに伴って、2011年1月、ミシンや木工用具等々の資機材とマイクロクレジット（小規模の融資）を全受益者に供与しました。

現在（2011年3月時点）、各自がグループや個人で収入を得るための計画を立て、洋裁や木工大工などの習得した技術を使って、自分の力で収入を得ることができるようになっています。まだ、安定した収入を得るには至っていませんが、各自、前向きに取り組んでいます。

同時に、元子ども兵に加えて、これまで共に訓練を受けてきた元国内避難民らの最貧困層住民にも同様の支援を行い、彼ら彼女らも自立に向けて順調に歩み始めています。

同地では、元子ども兵に限らず、多くの住民が不安定な経済状況の中で生活しており、さらに開発が進むとともに、貧富の格差が急激に拡大している中で、収入を安定させることは容易ではありません。海外からの援助が一部の裕福層に偏って流れることも珍しくなく、そんな中で家賃や物価が急激に高騰したり、農村の土地が買い占められたりといったことも起こっています。

このような状況で、各自が収入を安定していけるように、受益者の帰還先の各地域で、貯蓄グループを形成し、何らかの外部要因で大きな出費が発生した場合などのリスクに対応できるように支援を行っています。

10代のほとんどを兵士として過ごさざるを得なかった彼ら彼女らが、紛争後の不安定な地域で自立していくためには、まだまだ大きな壁があるかもしれませんが、今後、全員が経済的にも、社会的にも安定した生活ができるように、スタッフ一同、支援を継続していきたいと思っています。



自らの力で収入を得るための小規模ビジネスの計画策定を完了して、当会から洋裁用ミシンなどを受け取る第5期生。同洋裁用ミシンは、（特活）イエロー・エンジェル（理事長：カレーハウス CoCo 荻番屋創業者宗次徳二）様のご寄付により購入させていただきました。

現地の人々がオーナーシップを持てることを願って

2005年に開始した同事業は、開始から5年目～10年目の間に、現地化（現地の人々によって事業を運営・管理）できることを願って活動を続けてきました。「現地の人々が必要とする支援や公共サービスを担っていくのは、外国人ではなく、現地の人々であるべきである」という当会の海外事業の方針に則って、現地人がオーナーシップを持てる体制づくりに励んできました。そして、今年度、当会の現地職員を対象にした、危機管理や、プロジェクトの立案、モニタリング、評価などの、事業の運営管理に必要な一連の研修を完了しました。

これに伴い、来年度からは、日本人駐在員に代わって、現地事務所の代表を現地職員が担っていくことになり、ウガンダ事業は新たな体制で実施していくことになりました。

元子ども兵たちなど紛争の被害を受けた人々が自立していくように、その被害者を支援する現地事務所も自立して欲しいと願っています。まだまだ知識、経験ともに不安な部分もありますが、現地の文化や伝統、歴史を共有している現地人であるからこそ、できることも多々あると考えています。今後も「元子ども兵の社会復帰支援」のニーズがある限り、事業を継続していきますが、あくまでも「現地のニーズ」を最大限尊重し、ウガンダ事業を展開していきたいと考えています。



当会のウガンダ事業を担っていく現地スタッフのメンバーたち

●ウガンダ不法小型武器問題啓発プロジェクト概要

目的	不法小型武器問題に関する市民の意識を向上するとともに、政府と市民社会の協力関係を強化する。
対象地域	ウガンダ共和国カンバラ市
対象者 / 受益者数	直接受益者：不法小型武器の被害を受けている地域の住民 間接受益者：直接受益者の家族及び近隣の貧困層住民 約 2,000 名
実施期間	2010年11月～継続中

不法小型武器問題の啓発活動

ウガンダ国内で不法小型武器問題の啓発活動に取り組む NGO のネットワーク組織である UANSA（ウガンダ小型武器行動ネットワーク）との定期的な情報交換を行い、各種会合へ参加しました。また、これらの会合の中で、小型武器の被害を止めるためには、ウガンダ国内だけでなく、小型武器の流入が頻繁に行われている近隣諸国を含めた、「アフリカの角・大湖地域（東アフリカ地域）」に広がる市民社会の協力・ネットワークを強化することが重要との認識から、同地域の市民社会のネットワークである EAANSA（東アフリカ小型武器行動ネットワーク）が、効率的に情報交換し、協働していくために、ノートパソコンの供与とソーシャルネットワークの活用方法についての研修を行いました。

●コンゴ東部における元子ども兵及び紛争被害者エンパワーメントプロジェクト概要

目的	紛争下で生きる元子ども兵及び紛争被害者の BHN（人間としての基本的ニーズ）が満たされる。
対象地域	コンゴ民主共和国南キブ州カレヘ行政区カロンゲ区域 12 カ村
対象者／受益者数	直接受益者：711 名（元子ども兵 171 名、紛争被害女性 382 名、孤児 158 名） 間接受益者：直接受益者の家族 約 2,700 名
実施期間	2006 年 11 月～継続中

昨年度に引き続きコンゴ民主共和国東部での事業を、南キブ州にて、同州プカプ市に拠点を置く現地 NGO「GRAM（グラム）」と連携し実施しました。同事業では、2008 年、株式会社アイケイ様のグローブ基金により完成したグローブハウスⅢを拠点に、同州カロンゲ区域の 12 カ村の元子ども兵、性的虐待を受けた女性、孤児などの社会的弱者 711 名及びその家族 2,700 名を対象に、紛争下で基本的ニーズを満たすことを目標に行っています。

食料確保のための相互扶助（助け合い）活動

同地域は現在も武装勢力（FDLR：ルワンダ解放民主勢力）の影響下にあり、村々の襲撃や住民の殺害、食料の略奪などによって人々は不安定な生活を余儀なくされています。こうした状況の中、必要な食料を確保するために相互扶助グループを組織し、農業指導や農具、種子の供与、魚の養殖池の整備などを行ってきました。2009 年度同様、12 カ村（12 グループ）は、昨年の収穫物（キャッサバ、サツマイモ、ジャガイモ、豆、マトウケ、ヤムイモ、メイズ、キャベツ）から種子を確保して栽培を開始しています。そのうち、9 グループは、今年も順調に栽培が進んでおり、各グループのメンバーが協力して、個人の土地の開墾、共同農地の開墾、栽培を行っています。また、昨年は、市場で販売するだけの余剰作物を生産することはできませんでしたが、今年は、各グループが共同農地で収穫された農作物の半分を市場で販売し、現金収入を各グループが共同貯蓄することができました。貯蓄金は、グループのメンバーが病気や怪我の治療など現金が必要な時のために使っています。



一方、残りの3カ村（3グループ）は、政府軍、反政府軍双方からの襲撃や略奪が続くなどの治安悪化のため、農地を耕すことが困難になり、一時的に中心地であるカロンゲに近い他のグループの村に避難せざるを得なくなり、避難先の土地で、当地のグループメンバーの協力を得て、食料生産を行いました。同3グループには、豆など主要穀物の緊急支援を実施し、半分は臨時の食料として、半分は避難先での栽培用の種子として利用しました。

また、農機具が不足・欠損しているメンバーに対して、97個の農機具部品（鋤の刃）を提供しました。

同地域では依然として、このような不安定な状況が続いていますが、グループ間の協力を促進しながら、これら3カ村のメンバーも自給食料が確保できるように支援を継続しています。



提供された農機具

マラリア予防のための活動

事業実施地域の南キブ州カロンゲ区域には、1つの病院と16の診療所があり、人道援助団体がワクチンの接種など医療支援を行っています。しかし、多くの人々（特に5歳未満の乳幼児）が、予防または治療可能なマラリアや下痢、栄養失調などによって命を落としています（死亡要因の16%がマラリア）。

同活動では、現地の病院や診療所、他の援助機関らとも協力しながら、マラリア予防のための啓発活動や蚊帳の配布、基礎健康教育など、受益者及びその家族が健康を維持するために必要な支援活動を行っています。

2010年5月には、政府軍や反政府軍の兵士によって性的暴力の被害を受け、10歳未満の子どもを抱えている女性を対象に、マラリア予防の啓発活動を行い、300家族に蚊帳を届けました。



蚊帳の配布



蚊帳を広げています

topic



「ケータイ for コンゴ」 始まる

～要らなくなった携帯電話を送ってください～

テラ・ルネッサンス事務局内ではKFCと呼ばれている「ケータイ for コンゴ」。2010年9月から新しく始まったこの事業は、不要になった携帯電話の回収を行って、日本国内のレアメタルの再利用を促進するとともに、コンゴで起きている紛争の現状を少しでも一般の方々に知っていただくことを目的としています。

レアメタルは、携帯電話など、私たちが日常生活の中で使っている電子製品の中に使用されています。しかし、レアメタルは日本では採れません。そのため、すべて海外からの輸入に頼っています。その一方で、レアメタルが採掘される国の中には、当会が支援するコンゴ民主共和国をはじめ、レアメタルが紛争を行う資金源とされていることがあります。私たちの生活そのものが、世界の紛争の原因になっているかもしれないのです。この携帯電話の回収事業をきっかけにして、私たちの生活と世界とのつながりを考えてもらう機会となればと思っています。

詳しくは web で！ 「ケータイ for コンゴ」 <http://www.terra-r.jp/congo/>

平和教育・啓発活動

平和セミナー（講演）は、紛争に関する事実を伝え、私たちが争いのない社会をつくるために、何ができるのかを考える"場"です。さまざまなデータ、体験に基づいてお話をしています。どんな活動でも、第一歩は「事実を知ること」から始まります。学校の総合学習、行政の国際理解研修、企業の社員研修など、さまざまなところで講演をさせていただいています。「わかりやすい」「自分にできることから始めたい」など、多くの方にご好評いただいています。

●講演主催者の声



「このフレーズが気に入った！」

講師：鬼丸昌也

鬼丸さんの講演はとにかく精力的だ。私はその中で、「人は人を変えることは出来ないが、人を変えるヒントを与えることはできる。」というフレーズに出会った。彼のように地雷除去やアフリカ少年兵問題に直接関わることは力量的に到底できませんが、自分の周りのささやかな取り組みが世の中を変える力を秘めている、そう信じさせてくれるに十分な講演でした。

金山昭夫様：滋賀県教育委員会事務局 スポーツ健康課長 <前 県民活動課長>



「国際協力に対する関心の深さを実感」

講師：小川真吾

2011年3月5日は、一つのことを確信した日となりました。それは、「市民の皆さんの国際協力に対する関心の深さ」です。参加者の数、真剣に話を聞く姿勢、数多くの積極的な質問などから、それを実感することができました。これからも、このような機会の提供を行っていきたいと思います。ありがとうございました。

加藤秀一様：(社)青年海外協力協会 事業部 駒ヶ根事業課 総括主任



「回収ボランティア活動を開始」

講師：栗田佳典

全校生徒約270人を対象とした全校道徳の授業の講師に栗田佳典さんをお招きし、ご講演いただきました。少年兵の厳しい現実を知り、中には涙を見せた生徒もいましたが、前向きに明るく強く生きる現在の様子を聞かされて、自分自身の生き方を見つめ直した生徒が多かったです。その後、当時の2年生が使用済みインクカートリッジと書き損じハガキの回収ボランティア活動を始め、新年度には新入生にも働きかけを始めました。

塩澤純世様：静岡市立安倍川中学校 教諭

●講演実績：敬称略、順不同

企業	株式会社デミック 医療法人社団 恵心会 京都武田病院 オムロン株式会社 株式会社マグナムメイドサービス 名備運輸株式会社 株式会社ヒトミ 滋賀建機株式会社 株式会社ウエダ本社 明光義塾城東ネットワークEMCジブロス 株式会社リンガーハット 株式会社パソナ パソナキャリアカンパニー企画チーム ダイイチ株式会社 西日本旅客鉄道株式会社京都支社 社会福祉法人 健仁会 ケアハウス香楽園
行政	宇都宮市役所 新潟県庁 神奈川県庁 三重県教育委員会 滋賀県県民活動課 京都府井手町役場 摂津市人権室人権推進課 摂津市教育研究四者協議会・摂津市人権協会 東大阪市人権教育研究会 大阪教組北河内女性部 広島県三次市 波方人権教育協議会 佐賀県庁 熊本県総務部人事課人材研修センター 三教組員弁支部青年部
教育機関	早稲田大学オープン教育センター 日本外国語専門学校 品川女子学院芳葉会 静岡大学教育学部附属静岡中学校 大阪市立大学 静岡市立安倍川中学校 金沢大学教育学部附属金沢中学校 郡上市立郡南中学校 郡上市立明宝中学校 龍谷大学 日本福祉大学国際福祉開発学部 立命館大学 立命館大学国際関係学部学生委員会 立命館中学校・高等学校 京都光華女子大学 京都市立七条中学校 京都市立梅津中学校 大淀町立大淀中学校 大和高田市立高田中学校 土佐清水市立足摺岬中学校 吹田市立千里第一小学校 豊中市立新田南中学校 枚方市立さだ中学校 四條畷市立四條畷西中学校 門真市立第三中学校 門真市立第五中学校 門真市立第六中学校 堺市立浜寺小学校 大阪府立泉佐野高等学校 熊取町立熊取中学校 神戸外国語大学ピースプロジェクト 姫路市立林田中学校 和歌山県立田辺工業高等学校 徳島県立城東高等学校
団体	(宗)松緑神道大和山 (宗)救世真教 (宗)立正佼成会 (社)乙訓青年会議所 (社)伊那青年会議所 (社)名古屋青年会議所 (社)大阪青年会議所 (社)稲沢青年会議所 (社)広島青年会議所 東京高野塾 京都商工会議所 京都紫野ロータリークラブ (社)京都府宅地建物取引業協会第一支部青年部 京都中央倫理法人会 (財)京都市国際交流協会 (社)部落解放・人権研究所 日本郵政グループ労働組合近畿地方本部 JICA大阪・大阪府教育センター JICA北陸 (特活)ネットワーク「地球村」 日本人の心再生機構 読書朝食会 いきざま図鑑プロジェクト 市民社会フォーラム 鬼丸昌也講演会実行委員会 (北海道札幌市) 鬼丸昌也講演会実行委員会 (北海道帯広市) テラ・ルネサンス鬼丸昌也札幌講演会実行委員会

●主催イベント

9年間の活動を振り返った10周年記念イベント、及び活動報告会を、計6回実施しました。

- 05月14日(金) 鬼丸昌也講演会(京都)
- 06月19日(土) 総会記念イベント(京都)
- 10月30日(土) 設立10周年記念イベント(愛知)
- 10月31日(日) 設立10周年記念イベント(東京)
- 11月06日(土) 設立10周年記念イベント(京都)
- 02月26日(土) 鬼丸昌也講演会(東京)



●各種イベントへの参加・出展

- 06月12日(土)～13日(日) アフリカンフェスタ(主催:外務省)
- 06月12日(土) チャリティバドミントン大会(主催:頑張らないバドミントン研究会)
- 07月26日(月) チャリティチャイルドカット(主催:クンクンルーホー)
- 10月02日(土)～03日(日) 国際協カステーション(主催:財団法人 京都府国際センター)
- 09月11日(土)～12日(日) チャリティバザー(主催:宗教法人 松緑神道大和山)
- 10月08日(日) 「平和」・「当たり前」を考えるシンポジウム(主催:株式会社 沖縄教育出版)
- 10月24日(日) ヒューマンステージ・イン・キョウト2010(主催:京都市)
- 11月07日(日) Peace Conference for Youth(主催:社団法人 大阪青年会議所)
- 11月21日(日) 京都ヒューマンフェスタ(主催:京都府)
- 11月22日(月) チャリティチャイルドカット(主催:クンクンルーホー)
- 11月27日(土) 「子どもたちを救え!」児童労働の現実とILO/NGOの取り組み(主催:「地球の未来に、いっちょかみ。」実行委員会)
- 02月05日(土)～06日(日) ワン・ワールド・フェスティバル(主催:同実行委員会)

ダライ・ラマ法王とパネルディスカッション (Peace Conference of Youth 11月7日)

社団法人 大阪青年会議所主催「Peace Conference of Youth」にて、基調講演を務められたダライ・ラマ法王(チベット仏教最高指導者・ノーベル平和賞受賞者)、一青窈さん(歌手)や学生代表とともに、平和をつくりだすために、私たちに何ができるのかを考えました。



「平和」・「当たり前」を考えるシンポジウム(10月8日)

ウガンダで実施している元子ども兵社会復帰支援事業を開始した当初から支援をしてくださっている株式会社沖縄教育出版様が、『「平和」・「当たり前」を考えるシンポジウム』と題して、小川、トシャ・マギーによる活動報告並びに「平和」や「命」について考えるパネルディスカッションを実施してくださいました。支援者様がテラ・ルネッサンスの活動報告会を開催するという新しい社会貢献の形として注目されています。



メディア掲載

掲載総数：40 件（テレビ 2 件、ラジオ 4 件、雑誌 6 件、新聞 28 件）

●さまざまなメディアに、テラ・ルネッサンスの活動が紹介、掲載されました。

テレビ	2010/12/11	日本テレビ	「世界一受けたい授業」(書籍の一部を引用)
	2011/03/30	NHK BS1	「地球ドキュメント MISSION」子ども兵士 社会復帰への挑戦 (出演：小川真吾)
ラジオ	2010/06/28	KBS 京都ラジオ	「笑福亭笑瓶のほっかほかラジオ」ほっかほか 嘶の朝ごはん (出演：鬼丸昌也)
	2010/07/04	京都三条ラジオカフェ	「KYOTO HAPPY NPO！」(出演：栗田佳典)
	2010/11/29	KBS 京都ラジオ	「笑福亭笑瓶のほっかほかラジオ」ほっかほか 嘶の朝ごはん (出演：吉田真衣)
雑誌	2011/03/06	NHK ラジオ第一	「淡マガZ」(出演：江角泰)
	2010/04/01	Volo ウォロ	「若者集めの虎の巻 若者吸引計画 !!」
	2010/07/23	週刊金曜日	「企業や個人を巻き込む “闘わない” 平和運動」
	2010/06/28	日経ビジネスアソシエ	ロングインタビュー 「兵士にされた子どもの社会復帰をウガンダの地で手がける理由とは」
	2010/09/17	週刊金曜日	「トラウマを抱えた元子ども兵の「自立」を目指す支援活動」
新聞	2011/01/24	AERA	現代の肖像 ◆ 鬼丸昌也 「他人のために動くことが、自分を生かす道」
	2011/02/04	週刊金曜日	「一人で生き抜いてきた少女が元子ども兵の「自立」助ける」
	2010/05/22	毎日新聞	地球村に架ける橋 「子ども兵の惨状にりつ然」
	2010/05/29	京都新聞	「ウガンダへの愛 T シャツに」
	2010/07/12	東京新聞	「地雷、子ども兵なくせ！ 宇都宮市役所 NPO 理事長が講演」
	2010/07/17	亀岡市民新聞	学校通信 vol.61 「インクカートリッジ「捨てたらあかん」 亀岡中で回収して地雷撤去に」
	2010/08/12	京都新聞	「地雷除去へ募金活動」
	2010/08/23	東京新聞	「元子ども兵 200 人超 社会復帰」
	2010/09/05	毎日新聞	京都読書の森 「テラ・ルネッサンス II ～鬼丸昌也さんの挑戦～」
	2010/09/22	毎日新聞	「ケータイ for コンゴ」
	2010/09/23	京都新聞	「不要な携帯 回収」
	2010/09/29	産経新聞	「アフリカの真珠 ウガンダリポート」
	2010/10/03	京都新聞	「途上国支援 広がる輪 活動紹介や舞踊披露」
	2010/10/14	静岡新聞	「安倍川中で全校道徳 「思いやり」 平和への鍵 NPO 職員 子ども兵 実情訴え」
	2010/10/19	毎日新聞	「元子ども兵支援へ 伏見の NPO が 10 周年イベント ハート to ハート」
	2010/10/27	中日新聞	学校がつなぐ仲間たち 222 「静岡市安倍川中 「子ども兵」 ウガンダ惨状疑似体験」
	2010/10/30	読売新聞	「アフリカ支援へ 携帯の希少金属」
	2010/11/02	京都新聞	「地雷除去支援の NPO 理事長講演」
	2010/11/05	京都新聞	「地雷、子ども兵問題訴え 10 年」
	2010/11/07	紀伊民報	「豊かな未来描こう 田辺工業高校 人権講演会で鬼丸さん」
	2010/11/09	北陸中日新聞	「ウガンダの子ども兵救う NGO 1 人の行動 世界変える」
	2010/11/09	北國新聞	「子ども兵士の社会復帰支援紹介 金大附属中で講演」
	2010/11/13	毎日新聞	「先進国の大量消費が紛争に 元少年兵支援 NPO」
	2010/11/23	朝日新聞	「紛争の現実伝え 10 年」
	2010/12/15	北海道新聞	「元少年兵の社会復帰を支援」
	2010/12/22	日本経済新聞	若者 @WORK 「やりがい求め NPO へ、安易な志望に現場困惑も」
	2011/01/11	北海道新聞	はなし抄 「世界を変えられるのは平和を願い続ける市民の力」
	2010/12/25	産経新聞	「恒久的世界平和の実現に向けて 一世界学生平和会議開催」
2011/01/18	毎日新聞	「えんびつ大使キャンペーン」	
2011/01/21	京都新聞	「書き損じ年賀はがき回収中」	



AERA 2011 年 1 月 31 日号
現代の肖像 ◆ 鬼丸昌也
「他人のために動くことが、自分を生かす道」



日経ビジネスアソシエ 2010 年 10 月 19 日号
ロングインタビュー ◆ 小川真吾
「兵士にされた子どもの社会復帰をウガンダの地で手がける理由とは」



NHK BS1 2011 年 3 月 30 日 放送
ミッション # 30 小川真吾
「ウガンダ 子ども兵士 社会復帰への挑戦」

回収事業・募金箱・パネル・スタディツアー

●書き損じハガキ・使用済みインクカートリッジ回収事業



ハガッキー

テラ・ルネッサンスでは、2005年から、書き損じハガキ並びに使用済みインクカートリッジの回収を始めました。丸5年がたった今、2010年度は、年間で延べ500件ほどの団体・個人の方より、書き損じハガキや使用済みインクカートリッジの回収にご協力いただけるようになりました。

送られてきたハガキは、郵便局で切手に交換し、切手を金券ショップに買い取ってもらいます。また、使用済みインクカートリッジは、リサイクルインクを製造・販売している企業に買い取ってもらいます。そうして得られた資金を国際協力事業に活用しています。

2010年度に行った回収キャンペーン（2010年12月～2011年1月末）では、ハガキの換金額390,622円、インクの換金額169,210円、合計559,832円の活動資金を得ることができました。

1枚の書き損じハガキ、1個の使用済みインクカートリッジから、始められる国際協力。ぜひ皆様のお知り合いにもお声かけください。



インクン

●募金箱

身近な国際協力の手段をふやそうと、商店や店舗様に募金箱の設置をお願いしています。募金箱は、募金の使用用途に応じて、4種類あります。

地雷除去応援募金

子ども兵社会復帰応援募金

テラ・ルネッサンス応援募金

東日本大震災支援募金



●パネル

テラ・ルネッサンスが取り組む課題啓発のために、写真パネルの貸し出しを行っています。講演会の会場で、学校や地域のイベントで、パネルを通じて平和を考えてみませんか。パネルの種類は、3種類あります。

地雷（カンボジア）

子ども兵（ウガンダ）

子ども兵（コンゴ）



●スタディツアー

2010年度は、2011年3月6日から3月13日までの日程で、カンボジアスタディツアーを1回開催しました。ツアーの参加者は、合計8名でした。

ツアーでは、発展途上国の子どもたちの教育支援を目的に京都文紙事務用品組合様が主催されている「えんぴつ大使」の贈呈式も行いました。



ご支援紹介

アイデア満載の協力でテラ・ルネッサンスの活動を支援

名備運輸株式会社

名備運輸株式会社様は、「人にやさしい物流を」をモットーに、愛知県小牧市を拠点に運送、配達、倉庫業を展開されています。募金箱の設置やテラ・ルネッサンスの活動紹介などを通じて、多方面からテラ・ルネッサンスの活動を支援してくださっています。



●ご支援内容

名備運輸様では、テラ・ルネッサンスの活動に共感していただき、募金箱の設置、書き損じハガキ、使用済みインクジェットカートリッジの回収をはじめ、多方面からのご協力をいただいています。

毎年5月に小牧市で開催される『こまき産業フェスタ』では、テラ・ルネッサンス関連商品の販売などを通じて、テラ・ルネッサンスの活動を熱烈に紹介してくださいました。ブースでは、子どもたちに地雷撤去作業時に着用するプロテクターを着せてあげるなど、工夫いっぱいの展示で地雷、子ども兵の問題について訴えていただきました。

また、2011年3月11日に起こった東日本大震災では、テラ・ルネッサンスが緊急支援として提供する物資の運送にもご協力をいただきました。

●社会貢献、ボランティア活動を通じた人間育成を目指して

名備運輸様は、これまでも「ありがとうプロジェクト」をはじめ、さまざまな形で社員の皆様の人間育成に力を入れられています。そんな活動の一つとして、テラ・ルネッサンスにも温かい支援をくださっています。テラ・ルネッサンスの活動を通して、「ふだんは当たり前になっていることでも、実はそうではない」ということに気づいてほしい。そんな思いも託しながら、テラ・ルネッサンスの活動を支えてくださっているのです。



●応援メッセージ 名備運輸株式会社 代表取締役 丸川靖彦 様

今、この時にも誘拐され、親類を傷つけるように命じられたり、人を殺さなければならない子どもたちがいる。命が何びとも平等であるならば、子どもにはみんな幸せでいてもらいたい。その一心で、テラ・ルネッサンスの活動の手助けをしていきたい、そう思って支援を続けています。

お取引先の企業様とテラ・ルネッサンスをつなぐ、 インクジェットカートリッジ回収事業の仕組みを構築

株式会社 ウエダ本社

株式会社ウエダ本社様は、事務用品、OA 機器、ビジネスネットワークの構築を中心に事務機器の販売をされています。使用済みインクジェットカートリッジの回収を中心に本業を通じて、テラ・ルネッサンスの活動をご支援してくださっています。



●ご支援内容

ウエダ本社様では、お取引先の企業様にテラ・ルネッサンスの活動を紹介、回収 BOX の設置、回収を通じて、テラ・ルネッサンスの使用済みインクジェットカートリッジ回収事業に多大なご協力をいただいています。

テラ・ルネッサンスが使用済みインクジェットカートリッジの回収事業を行っていることを知った岡村社長が「これなら、事務機器を扱っている当社こそ協力できる！」と社員に呼び掛けてくださり、全社をあげて 2009 年よりご協力をいただいています。

2010 年度には、ウエダ本社様が主催する『京都流議定書 2010』に当会の鬼丸を講師として招致いただき、そこで、使用済みインクジェットカートリッジ回収によって得られた総額 15 万 1,060 円の寄付金を贈呈していただきました。

●他者に配慮できる世界を目指して

ウエダ本社様では、オフィスを取り巻く環境における問題解決を通じて、これまでも「人間にスポットを当て、人を中心とした展開、経営」を目指して、企業活動を行ってこられました。しかし、人の関係、考え方、価値観が変わり、多様性を認め、他者に配慮する世の中にならなければ、根本的な問題解決は図れない。この点においては、テラ・ルネッサンスも目指すべき目的は同じ。そんな思いでテラ・ルネッサンスの活動に共感し、ご支援をしてくださっています。



●応援メッセージ 株式会社ウエダ本社 代表取締役社長 岡村充泰 様

日頃より、素晴らしい活動をされている団体や個人の方とお付き合いをさせていただいています。本当に素晴らしい活動をされています。しかし、自立心が弱い、ビジネスマナーに欠ける、などの問題点もあります。

テラ・ルネッサンスがこのような点も含めて成功モデルとなり、後に続く NPO のモデルとなって、各方面で活躍する素晴らしい想いを持った人や団体が、その活動を継続していくことができれば、本当に世界を変えることに繋がると思います。是非、皆で一緒に応援し、皆で活動していきたいと思えます。

会計

2010年度 (2010年4月1日～2011年3月31日)
2011年度 (2011年4月1日～2012年3月31日)

2010年度収支計算書並びに2011年度収支予算書

(単位：円)

	2010年度予算	2010年度決算	2011年度予算
経常収入の部			
会費収入	15,000,000	15,094,000	15,000,000
寄付金収入	33,500,000	27,246,694	26,000,000
一般寄付	12,000,000	11,646,163	10,000,000
アジア事業指定寄付 (カンボジア・ラオス)	4,500,000	833,709	1,000,000
アフリカ事業指定寄付 (ウガンダ・コンゴ)	17,000,000	10,210,952	10,000,000
ともつな基金寄付	0	4,555,870	5,000,000
事業収入	15,530,000	17,037,705	19,100,000
啓発事業収入	9,530,000	10,876,106	12,000,000
物品販売収入	6,000,000	6,094,580	7,000,000
その他事業収入	0	67,019	100,000
補助金等収入	270,000	25,477,918	9,000,000
その他収入	155,000	268,520	0
経常収入合計	64,455,000	85,124,837	69,100,000
経常支出の部			
事業費	45,604,000	54,654,039	61,000,000
国際協力事業費	31,400,000	33,894,613	35,000,000
アジア事業 (カンボジア・ラオス)	9,400,000	16,132,926	18,000,000
アフリカ事業 (ウガンダ・コンゴ)	22,000,000	17,761,687	17,000,000
ともつな基金 (東日本大震災復興支援事業)	0	1,213,005	8,000,000
啓発事業費	7,500,000	13,666,589	12,000,000
人材育成事業費	1,364,000	1,037,420	1,000,000
物品販売事業費	5,340,000	4,842,412	5,000,000
管理費	17,762,000	18,539,519	18,000,000
人件費	6,884,000	5,861,682	6,000,000
施設費	2,580,000	1,983,022	2,000,000
諸経費	8,298,000	10,694,815	10,000,000
経常支出合計	63,366,000	73,193,558	79,000,000
経常収支差額	1,089,000	11,931,279	▲ 9,900,000
その他資金収入の部			
その他流動資産収入	0	2,790	0
その他資金支出の部			
工具器具備品購入支出	0	168,800	0
その他流動資産支出	0	1,280	0
その他資金収支差額	0	▲ 167,290	0
当期収支差額	1,089,000	11,763,989	▲ 9,900,000
前期繰越収支差額	9,203,670	9,203,670	20,967,659
次期繰越収支差額	10,292,670	20,967,659	11,067,659

補助金等収入明細

(単位：円)

補助金等収入	
財団法人 京都府国際センター「国際虹の輪募金」	270,000
連合「愛のキャンパ」	500,000
公益財団法人 京都地域創造基金「事業指定助成プログラム」※1	9,573,332
外務省日本 NGO 連携無償資金協力	10,589,327
Panasonic NPO サポート ファンド for アフリカ	1,000,000
トヨタ財団 アジア隣人プログラム	1,045,259
真如苑	2,500,000
合 計	25,477,918

※1
京都地域創造基金の「事業指定助成プログラム」を利用して寄せられた市民からの寄付を、京都地域創造基金からの助成金として受領しています。

貸借対照表 (2011年3月31日現在)

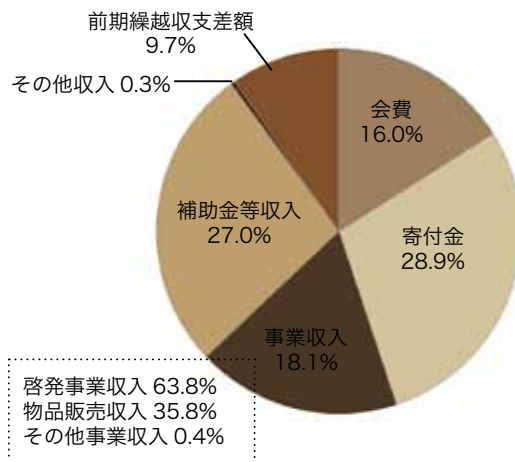
(単位：円)

資産の部	
流動資産	23,238,702
現金預金	21,278,939
商品	1,198,065
前渡金	151,200
前払費用	1,280
仮払金	37,929
貸付金	571,289
固定資産	5,505,851
有形固定資産	
建物	5,559,471
車両運搬具	3,946,378
工具器具備品	533,400
土地	444,234
減価償却累計額	▲ 4,977,632
資産合計	28,744,553

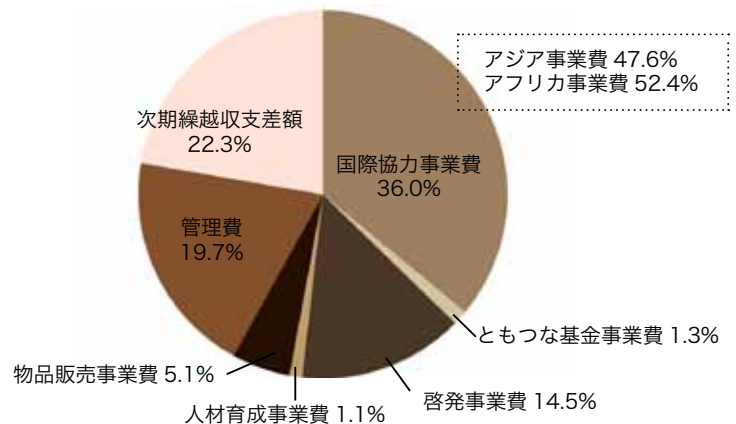
負債の部	
流動負債	500,409
未払金	205,512
預り金	224,897
未払法人税等	70,000
負債合計	500,409

正味財産の部	
正味財産	28,244,144
前期繰越正味財産	16,986,764
当期正味財産増減額	11,257,380
負債及び正味財産合計	28,744,553

収入内訳



支出内訳



国際協力事業費明細

(単位：円)

アジア事業費	
一般管理費	1,422,108
地雷埋設地域村落開発プロジェクト (カンボジア)	2,710,324
地雷回避教育プロジェクト (カンボジア)	118,929
地雷&不発弾撤去支援プロジェクト (カンボジア)	327,080
地雷埋設地域小学校建設プロジェクト (カンボジア)	7,257,226
地雷埋設地域伝統音楽復興&継承プロジェクト (カンボジア)	523,313
スタディツアー諸経費 (カンボジア)	63,565
その他事業 (カンボジア)	1,217
ラオス事業プロジェクト調査費 (ラオス)	60,490
日本国内業務費	3,648,674
合計	16,132,926

アフリカ事業費	
一般管理費	728,152
元子ども兵社会復帰支援プロジェクト (ウガンダ)	8,262,573
BHN 支援活動費	2,353,886
能力向上支援活動費	2,146,258
心理社会支援活動費	906,037
所得向上支援活動費	2,398,186
マイクロクレジット原資	458,207
不法小型武器問題啓発プロジェクト (ウガンダ)	86,454
視察・スタディツアー諸経費 (ウガンダ)	6,415
元子ども兵及び紛争被害者エンパワーメントプロジェクト (コンゴ民主共和国)	2,430,623
日本国内業務費	6,247,470
合計	17,761,687

監査報告書



物販

テラ・ルネッサンスでは、身近にできる国際協力として、テラ・ルネッサンス関連商品の販売をしています。物販の収益はテラ・ルネッサンスの活動費に充てられます。

鬼丸昌也講演 DVD

テラ・ルネッサンスの取り組みを、設立のきっかけとともに紹介する、テラ・ルネッサンス理事、鬼丸昌也の講演 DVD が絶賛発売中です。忙しくて講演に来れない方、講演が忘れられない方、ご家族やご友人、同僚にも聴いてほしいと思っっている方におすすめです。

世界の抱える問題と私たちのライフスタイルは決して無関係ではありません。あなたとあなたの大切なひとの未来を考えることは、きっと新しい「一歩」を踏み出すきっかけになるはずです。



価格：1,050 円

ウガンダ産自然栽培コーヒー Café de Terra Renaissance

カフェ・ド・テラ・ルネッサンスは、無農薬・無肥料で、マイルドな味が特徴のフェアトレード・コーヒーです。生産者にも、消費者にも、環境にもやさしいコーヒーで国際協力を始めてみませんか？ 1袋 700 円でお買い求めいただけるコーヒーの定期購入のお申し込みも承っています。ぜひ一度ご賞味ください！



価格：800 円

ぼくは 13 歳 職業、兵士。 —あなたが戦争のある村で生まれたら—

著者：鬼丸 昌也+小川 真吾 / 出版社：合同出版株式会社

毎年 50 万人、毎分 1 人の命が小型武器により奪われています。中でも、武器を持たされ、兵士として戦わされてきた子ども兵の問題は深刻です。そんな絶望的な問題の現状と、私たちにできることを、この本は教えてくれます。



価格：1,365 円

こうして僕は世界を変えるために一歩を踏み出した

著者：鬼丸 昌也 / 出版社：こう書房

資金も人脈も何もない中、「私たちは、微力ではあるが、無力ではない」という信念から、「テラ・ルネッサンス」を立ち上げ、地雷除去や元子ども兵の支援を始めた鬼丸昌也。人は、どんなに厳しく難しい状況の中であっても、それを乗り越えていく「生きる力」を持っている。そんなことに気づかせてくれる、かけがえない 1 冊です。



価格：1,470 円

漫画 テラ・ルネッサンス I、II (全 2 巻)

作：田原 実、画：西原 大太郎 / 出版社：株式会社インフィニティ

世界平和の実現に向けて歩むテラ・ルネッサンスの活動が漫画になりました。『未来は自分が創るもの』というメッセージが、ウガンダ、コンゴの元子ども兵支援やカンボジアの地雷撤去支援を通じて描かれます。

「生きる力」が湧いてくる渾身の 2 冊です。



価格：各 1,260 円

理事	小川真吾（特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス理事長） 鬼丸昌也（特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス理事） 岡田多母（有限会社アースエネルギー研究所取締役） 中井隆栄（株式会社サピエンスマネジメント代表取締役）
監事	本田俊雄（弁護士／法律事務所あすか所長）
顧問	小田全宏（特定非営利活動法人 日本政策フロンティア理事長）
スタッフ	有給専従（国内6名、海外21名） 有給非専従（国内0名、海外2名） インターン9名
会員数	正会員166名 個人賛助会員498名 ジュニア賛助会員17名、団体賛助会員46団体、 ファンクラブ会員427名 / スマイルサポーター（里親）39名
加盟団体	関西 NGO 協議会、地雷廃絶日本キャンペーン、日本小型武器行動ネットワーク、 ウガンダ小型武器行動ネットワーク、国際小型武器行動ネットワーク、世界子ども兵禁止連盟、 京都 NGO 協議会、児童労働ネットワーク



10周年記念イベント／スタッフ集合写真（京都会場）



特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス

〒600-8191 京都市下京区五条高倉角塚町 21 番地
jimukinoueda bldg. 403 号室
TEL/FAX : 075-741-8786 E-mail : contact@terra-r.jp
HP <http://www.terra-r.jp>

2011 年 6 月 25 日 第 1 刷発行
2011 年 11 月 25 日 第 2 刷発行
発行人 : 小川真吾
発行所 : 特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス
定 価 : 500 円

※本書の一部またはすべてを無断で複写、転載引用することを固く禁じます。

www.terra-r.jp

